

考えを言語化する力を

哲学が必修の高校があります。岡山県に本校がある通信制の「ワオ高校」です。生徒は3学年にわたり哲学を学び、考えを言葉にする力を養います。月に数回、テーマについて自由に議論するオンラインの「哲学カフェ」も開催していて、誰でも参加できます。1日は「義務」をテーマに話し合いました。

通信制のワオ高校

学外から参加可「哲学カフェ」も開催

「義務とはなんだろう?」。この日の哲学カフェは、ワオ高校で哲学や公民を担当する福盛直樹先生の言葉から始まりました。参加したのは哲学部の生徒や、中学生など。小学生から80代まで参加することもあるそうです。

「当たり前にやること」「国民の三大義務を思い浮かべた」など参加者から意見が上がると、福盛先生は質問を重ねます。「当たり前のことをするのは誰?」「どうして三大義務がある?」

議論の中では、衆議院議員選挙など身近な話題が上がる一方、ホ

ップズやロック、ルソーなど哲学者の名前も飛び交いました。知識量や年齢が違って、みんなが考え、発言できるように工夫しているといいます。対話を重ね、参加者たちは「義務とは、人々が安全に生きていくために当たり前になくはないか」と定議づけました。

この日哲学カフェに参加した合田百花さん(香川県・高3)は、福盛先生から誘われ哲学部に入りました。「何百年も前の人たちも『どうしたら幸せになれる?』『正義とは?』と考えていました。自分の人生が豊かになるヒントがある」と哲学の魅力を語ります。

高1のけんとさん(東京都)は、中学生のとき哲学に関心を持ったことからワオ高校への進学を決めました。「哲学=歴史というイメージが強いかもしれませんが、現代にも通用するのが面白いです」

世代や場所を越えて対話を重ねる



オンラインでの哲学カフェの様子―1日
たけのこワオ高校提供

誰でも参加できるようにしているのは、「哲学は万人に対して開かれる必要があるから」と福盛先生は話します。「哲学には、みんなが納得する『普遍妥当性』が求められます。世代や住んでいる場所は関係なく、なるほどと思えなくてはならない。それこそが哲学カフェの醍醐味だと思います」

学んで体得、変化も

ワオ高校では哲学が必修です。バーチャルキャンパスや対面授業で「価値」や「正義」「自由」などさまざまなテーマを学びます。

なぜ必修科目にしているのでしょうか。平田強校長は「悩んだり、楽しいと感じたりしたときに、言語化して考えられる人間になってほしいから」と話します。「自分の言いたいことを言えない子が多

い。それを話せるようになる環境を用意したいと思いました。ただ、言いたいことだけ言えばいいわけでもない。人の話を聞いて、認識のすりあわせをすることを哲学を通して体得してほしいと思っています」

生徒たちにも変化が見えたといえます。例えば、学校の校舎にも入れなかった生徒が自分の意見を積極的に言えるようになったり、進学先を偏差値だけで選ぶのをやめる生徒が増えたりしたそうです。「哲学カフェをきっかけにワオ高校に関心を持ち、入学を決めた中学生もいました」

次回の哲学カフェは11月22日(金)午後6時からで、テーマは「勇氣」。https://www.wao.ed.jp/philosophy_cafe/から参加申し込みできます。



対面で哲学カフェを開催することもあるそうです